

## 横断的な連携によるノーリフティングケアの促進



～ノーリフティングケアで持続可能な福祉を目指して～



### 1. 本事業に取り組む上で掲げた3つの目標（ポイント）

1. (ノーリフティング) ケアの**基本・目的を再確認**すること
2. 自分達の「強み」を生かしながら「**弱み**」を**最小化**すること
3. 次レベルのケアステージに**ステップアップする好機**とすること

客観的な評価による現状考察  
(何が出来ていて、何が出来ていないか)

#### 当事業所におけるノーリフティングケアの歩み（略歴）

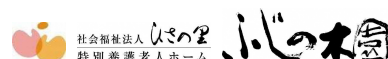
- 2016年02月 ノーリフティングケア研修に参加し、同ケアを知る
- 2016年07月 ノーリフティングケア委員会を発足
- 2016年11月 一部モデルユニットにて同ケア開始（試験導入）
- 2017年02月 同ケア本格導入に向けたスタッフ研修開始
- 2017年05月 リフト機器（必要台数）を導入、同ケア本格スタート
- 2017年08月 ICTによるケア記録情報を一元・一覧化（多職種連携）
- 2019年04月 IoT機器（スキャニングロボット）導入によるケア効率化

#### 対外的な活動

- 自治体、事業所への普及活動
- 各種イベントでの事例発表  
(西日本福祉機器展、大阪バリアフリー展、ノーリフト国際フォーラム、北九州市魅力ある介護の職場づくり表彰 他)



- 2020年08月 本事業に先行モデル施設として参加（現在に至る）



## 2. チャレンジする課題・テーマを明確に

ふじの木園におけるケアの考え方

「ケアを通じて、入居者もスタッフも**双方が幸せな関係**を作る」

- ① ノーリフティングケアの実践
- ② 福祉用具・機器の導入・管理
- ③ ケア技術の質の担保と向上

これまで実践してきた主な課題・テーマ



### ④ ケア環境の安全衛生管理

... 本事業を通じてチャレンジすることで  
双方の幸せな関係づくりを深める

大切な共通認識 「 **多職種による多角的・客観的な視点でのマネジメント** 」



## 3. 本事業を通しての気付き

できている点（強み）

1. 個々、チームがケアを自己学習できる環境
2. 現場、職種間の日々のケア情報共有体制
3. 現場レベルでケア技術の評価・フィードバックできる環境

1. 個人で自己学習



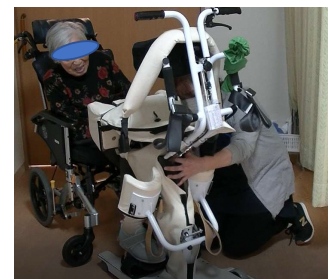
ケア別に数分の動画で  
マイクロラーニング

2. 記録情報の一元・一覧化による共有

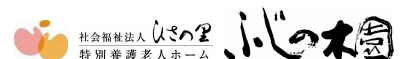


PC・スマホ・タブレットで  
必要な情報を共有

3. 業務中・前・後でケア検定



ケアリーダーが技術指導・評価  
(動画撮影しフィードバック)



### 3. 本事業を通しての気付き

できていない点（弱み）

#### 1. 個々の健康（特に腰痛予防）に対する意識の差（個人差）

... 個人単位での腰痛予防に取り組む意識・姿勢の差（違い）が顕著にある

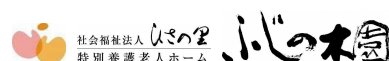
#### 2. リスクマネジメント（環境面のインシデント把握）

... 入居者のインシデント共有はできていたが、「働く環境」としてのインシデント共有・管理ができていない

#### 3. （労働安全衛生的な）職場環境の把握・管理

... ユニットを「職場＝働きやすさ」として客観的に評価する視点がない（入居者にとっての暮らしの場作りにウェイトが大きく置かれている）

できるところから、コツコツと...



できていない → できるところから実践①－1

#### 1. 個々の健康（特に腰痛予防）に対する意識の差（個人差）

2020年7月から始業前の健康体操（腰痛予防体操）を全職員で実践することを決定（体操動画で共有）



動画を作成し共有



朝礼時の体操



ところが...



2020年8月の腰痛アンケートで「介護職員」の体操実践状況が極めて悪いことが判明（実践していない...47.5%/週に1回程度...30%/週に2～3回程度...15%/必ず実施...7.5%）

できていない → できるところから実践①-2

## 1. 個々の健康（特に腰痛予防）に対する意識の差（個人差）

そもそも...なぜ、一番身体を使う「介護職員」が体操を実践できていないのか？

（評価・考察）

- できない理由を自身で作っている...「時間が無い」「余裕がない」「忙しい」「ついつい忘れてしまう」等々
- 腰痛（腰痛歴含む）がある人ほど、体のメンテナンス意識が低い（痛めて初めて対処する）
- 「いつ」「どこで」「どのように」体操するのか、具体的な指示がない（やりましょう！で終わっている）

（対策）

- ① 体操動画を詰所タブレットで誰でも簡単に操作・閲覧できるように設定し、体操しやすい環境づくり
- ② 業務日報にサイン欄を設け、職員個々の業務前の体操実施状況を「見える化」で個人への意識付け

（結果）

- 体操を実施する仲間が少しずつ増えてくることで、始業前の体操実践状況が100%に改善（12月アンケート結果）

（今後の課題）体操だけでなく、業務中の姿勢管理（基本姿勢>不良姿勢）を通して、トータルで腰痛予防対策を（※腰痛の原因となった行為の上位3つが、いわゆる「不良姿勢」によるものとアンケート回答があった）

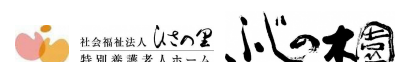


できていない → できるところから実践②

## 2. リスクマネジメント（環境面のインシデント把握）

- |                     |   |  |
|---------------------|---|--|
| ① 「どんな内容を」報告すればいいの？ | ➡ | ① 内容を定義 <ul style="list-style-type: none"><li>• 福祉用具・機器の故障や破損 等</li><li>• 「危ない」「負担が大きい」と感じる環境・場面等</li></ul>                |
| ② 「どうやって」報告するの？     | ➡ | ② 既存の記録システムで情報共有   |
| ③ 「どうやって」管理・対応するの？  | ➡ | ③ インシデント報告を多職種で協議 <ul style="list-style-type: none"><li>• 出勤時に確認し、即時対応できるものは即時対応</li><li>• 即時対応できないものは、会議内で対応・協議</li></ul> |

インシデント情報は「量」も重要だが、「どのように」共有・管理・対応するかの仕組みも重要



できていない → できるところから実践③-1

### 3. (労働安全衛生的な) 職場環境の把握・管理

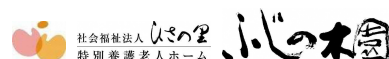
これまでの考え方 (視点)    ユニット (現場)    =    暮らしの場    ( >    職場    )



- 「入居者 (主語)」が「暮らしを継続する (目的)」ための場所
- 入居者目線で「施設っぽさ」を極力、削ぎ落とす努力

- 一方で...
- 使用する用具機器は使いやすく管理され、整理整頓されているか?
  - 不良姿勢になりやすかったり、危険を伴うような環境は無いのか?

➡ **ユニット単位で (スタッフによって) できていたり、できていなかったり...**



できていない → できるところから実践③-2

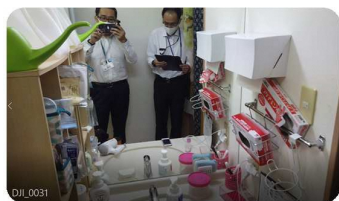
### 3. (労働安全衛生的な) 職場環境の把握・管理

これからの考え方 (視点)    ユニット (現場)    =    暮らしの場    +    **働きやすさ**

～基準～

- 整理・整頓状況
- 安全な物品管理
- 服装 (機能面)

(安全衛生視点での現場ラウンド)

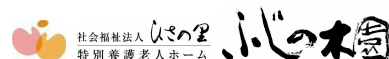


現場ラウンドでの気付き (5Sの視点)

- ① (整理・整頓) + 清潔・清掃の視点の重要性
- ② 動きやすさや足腰への負担を軽減する服装 (道具) の工夫に個人差
- ③ それらを標準化するための「ルール・基準の設定」が必要 = 躰

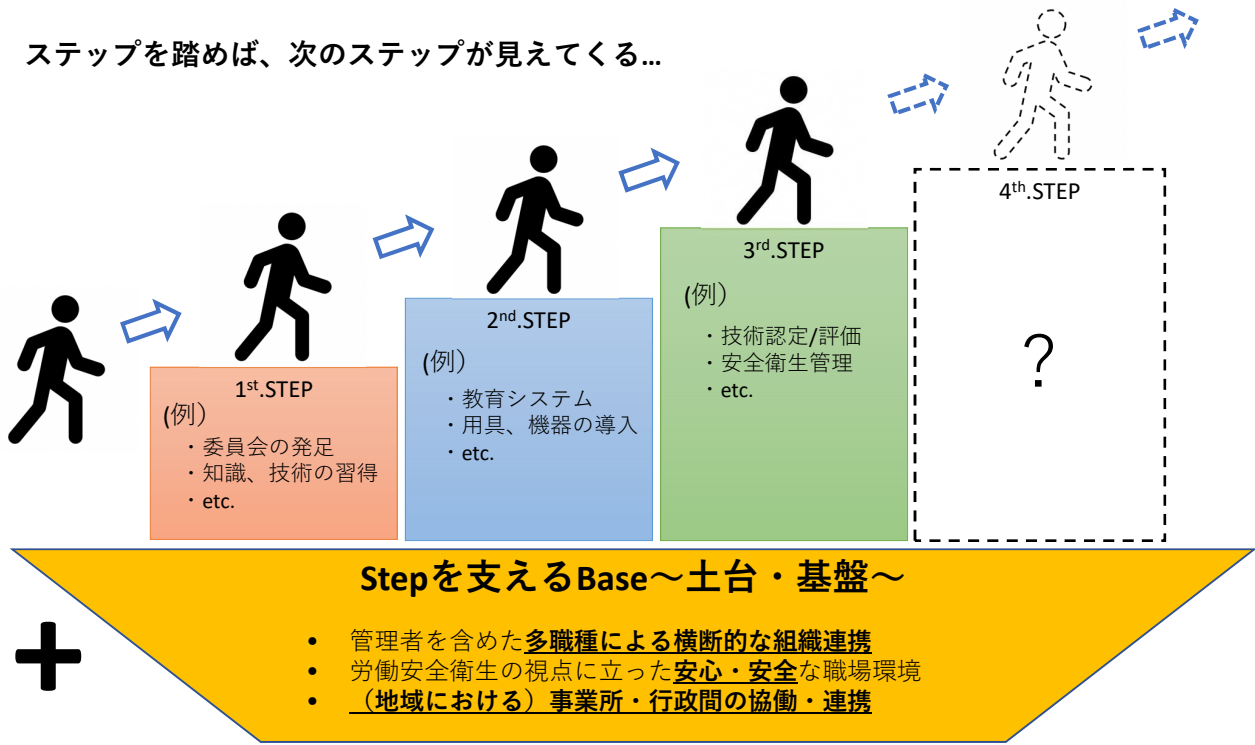
今後、これらの「気付き」を「どう実践していく」か...

- 定期的な現場ラウンドの実践とスタッフへの聞き取り
- 定例委員会・会議で多職種で協議・計画の立案、内容の公表
- PDCAサイクルと定期的な現状考察



# 本事業を通しての学び（まとめ）

ステップを踏めば、次のステップが見えてくる...



ステップを踏み続けるためには、それを支える組織作りも大切...



ノーリフティングケアの取組が拡がり

実践する事業所が地域内でつながり

地域の行政と連携しながら

実践する地域同志がさらにつながっていく

